

原子力委員会  
東京電力（株）福島第一原子力発電所視察 結果概要

平成 24 年 8 月  
内閣府原子力政策担当室

1. 視察趣旨

昨年 12 月、原子力委員会は、重大な事故を起こした東京電力（株）福島第一原子力発電所の廃炉に向けた中長期の取組に関する基本的考え方を政府に提言した。政府はこれを踏まえて中長期対策会議を設置し、この原子力発電所の廃炉に向けた中長期の取組を開始している。

この提言において、原子力委員会は関係行政機関等が報告書の内容を踏まえて、中長期措置全体の取組を適切に進めていることを適宜に確認するとした。

そこで、福島第一原子力発電所の廃炉に向けた中長期の取組の進捗状況を確認するために、現地視察を行った。

2. 日時

平成 24 年 7 月 26 日（木）

3. 場所

東京電力（株）福島第一原子力発電所

4. 参加者

《原子力委員会》

近藤 駿介	原子力委員会委員長
鈴木 達治郎	原子力委員会委員長代理
秋庭 悦子	原子力委員会委員
大庭 三枝	原子力委員会委員

《事務局》

吉野 潤	内閣府原子力政策担当室企画官
尾上 昌晃	内閣府原子力政策担当室政策調査員

《東京電力》

免震重要棟説明者	： 高橋 毅	福島第一原子力発電所長
発電所構内説明者	： 阿部 弘	福島第一原子力発電所 部長

5. 概要

○ 福島第一原子力発電所の視察

- ✓ 免震重要棟内の緊急時対策本部、TV会議システム、炉心パラメータ監視装置等を視察。
- ✓ 汚染水処理設備制御室、汚染水処理水受タンクを視察。タービン建屋からくみ上げた汚染水からセシウムの除去、また、淡水化を実施中。処理水受タンクは7月末現在保管容量約20万トン、空き容量約1.7万トン。
- ✓ 1～4号機の原子炉建屋外観を視察。1号機は建屋カバー設置済み、3号機は原子炉建屋上部の瓦礫撤去を遠隔操作で実施中、4号機は原子炉建屋上部の瓦礫撤去作業が一段落し、使用済燃料プールからの使用済燃料取り出しのための設備の準備中。
- ✓ 港湾部分にて海側より1～4号機のタービン建屋を視察。タービン建屋付近の通路は瓦礫が撤去され通行可能な状態であるが、依然として津波到来時に流されたトラック等がある。
- ✓ 乾式キャスク保管庫内部を視察。津波襲来によっても、保管されていた使用済燃料収納乾式キャスクは移動・損傷なし。
- ✓ 5, 6号機緊急医療室、5, 6号機海水設備、非常用ディーゼル発電機6B、夜ノ森線鉄塔倒壊現場、事務本館を視察。
- ✓ 原子炉注水ポンプ、処理水貯蔵タンクを視察。夏場の冷却水温上昇を抑制するため、新たに冷凍機を設置。現在、1～3号機の冷却は循環注水冷却(原子炉に注水、タービン建屋から冷却水抽出、汚染処理、原子炉に再注入)により実施中。

#### ○意見交換

- ✓ 以下の項目について意見交換を実施した。
  - ◇ 作業員の熱中症対策について
  - ◇ 作業内容・環境等の理解促進に向けた取組について
  - ◇ 作業員の確保と被ばく低減対策について
  - ◇ サイトに保管されている使用済燃料に対する取組について
  - ◇ サイト内の除染及び建屋内の除染について
  - ◇ 原子炉冷却水の量と保管場所について
  - ◇ 使用済燃料プールの冷却状況について
  - ◇ 高線量環境における作業の遠隔操作について

以上